

令和6年度第1回岡山県環境審議会大気部会 議事概要

(開催要領)

- 1 開催日時：令和6年9月4日（水）9：50～10：15
- 2 場 所：ピュアリティまきび 2階 千鳥（211）

3 出席者：

委員（五十音順。敬称略）

勝山博信、木村幸敬、黒宮亜希子、末石芳巳、高橋正徳、野沢徹
／計6名

事務局（県）

環境文化部環境管理課副課長、総括主幹（大気保全班長）、事務局職員
／計3名

議 題	1 議事 部会長の選出、副部会長の指名 2 報告事項 令和5年度環境大気測定結果
会議資料	別添資料のとおり
概 要	【議事】 部会長の選出、副部会長の指名 部会長に、高橋正徳委員が選出された。 副部会長に勝山博信委員が指名された。 【報告事項】 令和5年度環境大気測定結果 資料に基づき、事務局から説明した。
-委員意見等-	
委 員	これまでPM2.5の環境基準が達成できていなかったのは、どのあたりの測定局か。 また、稲わらの野焼きに由来するPM2.5を低減できたことが、環境基準の達成につながったのか。
事務局	令和4年度は早島局1局で環境基準を達成できなかった。令和3年度は全測定局で環境基準を達成したが、それよりも前では、県南部に環境基準が達成できていない測定局があった。 PM2.5については、日平均値が高い日が多いと、環境基準が非達成となるが、稲わらの野焼きだけでなく、大陸からの移流等によっても高濃度になることがある。そのため、環境基準の達成には、稲わらの野焼き防止に関する取組だけではなく、中国のPM2.5濃度の低減等の影響もあると考えている。

委員	光化学オキシダントは全局で環境基準を達成できておらず、全国的にも環境基準達成率は低いということで、個人的には基準が厳しいという印象も持つが、他に環境基準を達成できない要因は何か考えられるか。
事務局	他の要因が考えられるかといった点についてはなかなか回答が難しいが、御指摘のとおり基準という観点では、光化学オキシダントの環境基準は、評価方法が厳しく、昼間の1時間値が1回でも0.06ppmを超過すると非達成となる。光化学オキシダントについては、短期的な曝露で粘膜等に影響が生じるため、短期的な影響を防止することに着目して、このような評価方法になっているのではないかと思う。
委員	0.06ppmを超過しているときは、0.06ppmをわずかに超過しているということが多いのか。
事務局	0.06ppmをわずかに超えたというレベルではない濃度が観測されることもある。